

各セクションの報告・情報

THE : 現場

おかし屋ぱれっと・工房ぱれっと

～コロナ禍で花開く
アート活動～

おかし屋ぱれっと・工房ぱれっとは緊急事態宣言を受け、今年度は自宅待機からのスタートでした。作業所へ来られない間、皆さんに在宅で絵を描く仕事をお願いしました。それぞれが自宅で腕を磨き、自分の作品と向き合う時間を持つことができたのはコロナ禍の不自由な暮らしの中であっても手にした良かったことのひとつです。ゆううつな気持ちを吹き飛ばすような作品がいくつも生まれました！その成果をお伝えします。

●アートBOXクッキー



【わたしの自信作！】

6月に作業所が再開しても、しばらく注文や販売会が無い時期が続きました。そこで【おかし屋ぱれっとリスタート応援チャリティー】として、蓋に手描きの絵を施したクッキーBOXを企画しました。ニッコリ笑った顔、動物や花などなど…工夫をこらして完成させたオンリーワンのアートは、包装紙を開けてみてのお楽しみ！限定100箱で始めた販売も、年末には完売！しかし多方面からお問い合わせがあることから、追加販売を検討中です。

●シブヤフォント新データの選定

12月6日(日)には、シブヤフォントの

新データ選考会がオンラインで開催されました。ここに辿り着くまでの製作過程も今年度は全てオンライン。メンバー一人ひとりがパソコンの前に座り、ぱれっととタグを組む学生の井上智絵さんに向けて、ビデオ通話で自分の絵を紹介し、井上さんはメンバー達の原画から「渋谷らしさ」を抽出し、全部で8種のパターン(模様)と2種のフォント(文字)を完成させました。



【虫たちのファッションショー】
原画：竹森由維

そして選考会でぱれっとチームは「株式会社マグスタイル(※)賞」を受賞！



【副賞のシブヤフォントグッズを手にお賞の喜び！】

メンバー達が着実に力を積み重ねこうして花開いた過程は、たくましさや力強さを感じるものでした。完成したデータにもそれが表れていると思います。シブヤフォントホームページで、ぜひカラーでご覧ください！



▶▶ (たまい)

たまり場ぱれっと

～ボランティア交流会～

去る12月13日(日)、新旧のボランティア19名が参加してオンライン交流会を開催しました。昨年2月に全面的に活動を休止してからも、インターネットを通じてボランティアに応募してくれた人が多く、再開後も精力的に関わってくれています。今回の交流会はそういった方々と長年たまり場ぱれっとを支えてくれている人たちが集まって、主にグループディスカッションをメインに、ちょっとしたゲームなども取り入れながら、いろいろな話をしました。もちろん本当は、直接会って開催したいところでしたが、オンラインなれど話は盛り上がり、「じゃあ今度はたまり場の行事で会いましょう!」という締めくくりのひとことがとても印象的な時間でした。(たかむら)

ぱれっとホーム

～ささやかなお誕生日会～

しぶや・ぱれっとホームではいつも入居者のお誕生日祝いを行なっています。12月は内藤梨沙さんのお誕生日があり、ささやかながら入居者のみなさんでお祝いをしました。主役に夕食のリクエストを聞くと「シンガポールビーフンが食べたい!」とのこと。食後はデザートショートケーキを食べ、とても嬉しそうにしていました。

どこのグループホームも同じかと思いますが、コロナウィルス感染症対策で何かと神経を使う日々が続いています。入居者も高齢者施設に入所している親御さんになかなか会えない、職場も分散通勤・・・などストレスがたまりやすい生活を送っていますが、誕生日を祝うことで入居者の笑顔がみられ、ほっこりとした時間を過ごすことができました。(いいやま)

ぱれっとの家いこっと

～男子ごはん～

いこっとへ入居されている障がいのある男性は、最近お料理にハマっているようです。その方は月2回の訪問ヘルパーさんを利用していますが、ここ数ヶ月は、一緒にスーパーへ買い物に行き、食材を購入し、教えてもらいながらお料理を作っています。毎回違ったメニューを作って食べているようで、お魚をグリルで焼いたり、先日は野菜炒めや煮物を作ったと楽しそうに教えてくれました。以前からお料理はしていたみたいですが、益々腕を上げたのではないのでしょうか。コロナウィルスが収束し、いこっとでホームパーティーが出来るようになったら、腕前をご披露したいと思っています。

(にしかわ)